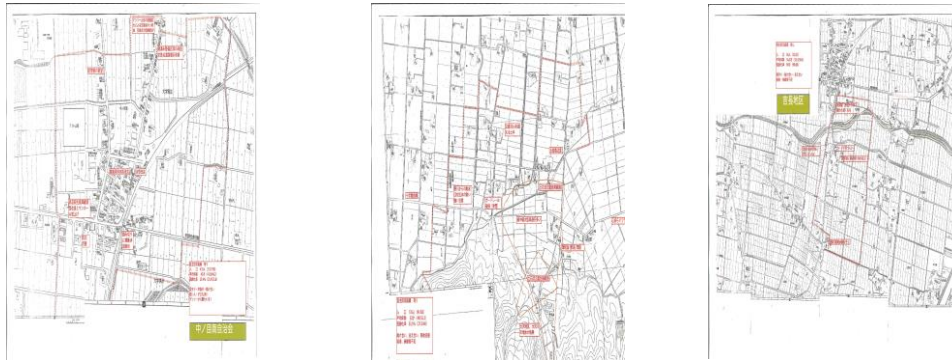


令和元年度 中部地区集落支援員活動報告

集落支援員 黒澤哲人

昨年度は地域を周り、アンケートをまとめ集落の課題をまとめました。

令和元年度は、**地域の(防災)課題マップ**作製に取り掛かり、集落毎の課題と危険箇所、更に住宅明細地図上にも要点を挙げた物が1年かけて漸く出来上がりつつあります。



上の3つの図は各集落を1枚ずつまとめ集落全体の要望や危険箇所を記しています。それを3字23集落載せています。次の3枚の図は更に中部全域の明細地図に載せました。

住宅明細地図を見るとデーターのナンバーが記されます。それを画像でも確認することが出来ます。



地域の居場所「いっぶぐあが家」も順調で、スタッフの動きもスムーズになってきています。後でも述べますが問題は移動支援です。

伝統文化の面では、道路に覆いかぶさっている中の若宮八幡の社叢の問題です。専門家の意見を聞きながら解決する方向に進んでいます。

空き家は徐々に解体され新しい家に生まれ変わる所が増えつつありますが、やはり廃屋に近い空き家が残っていきます。

改めて取り掛かったことは**地域学校協働活動推進員との係わり**でした。子ども達と地域との係わりを増やしていける、学童に頼りきらない地域活動、伝統文化継承の面でも、様々な事が出来る仕組みを考えて行きたいと思っています。

更に令和元年度の作業の中で一番大変だったのが『**地区別計画策定**』でした。来年度に向けても大きな課題だと言えます。3地区の課題等共有しながら進めて行かなければと考えています。

前半でも少し述べたのですが、地域の課題として取り組まねばならない事に、**交通弱者への移動支援問題**があります。地域の課題でもあるのですが、小さな居場所から始めてみたいと考えています。居場所に来たくても来られない人達の為にも取り組みたい事の一つです。昨年11月に山形遊学館でスキルアップ講座（移動支援）が開かれました。福祉に関わる移動支援が主でしたが、ここから居場所だけでなく地域の全ての人に対しても交通支援が出来る仕組みが出来ると考えています。白タク問題や、運転手の問題はあります。利用者の一部負担を頂ければ1種免許で対応できる形が作れそうです。深く取り組んで行きます。

中部地区は今後、**山形大学 xEV 研究所**や**専門職大学**、更に**大型工場の発展**で人口の増加が見込まれます。人が集まれば宿泊・食事・買い物・その他色々な面で雇用の場所が生まれます。・宿泊の面から言えば「シェアハウスやアパート計画」、「大学生と高年齢者の共同生活計画」等を地区別計画の中で模索出来ます。今後の**移住者**を考えれば、学生が起業を目指せる「サテライトオフィス」計画等、人口が増えれば可能になる事がどんどん増えてきます。田園散居村を生かした「農村型宅地計画」で四角に区画された宅地で無く散居村に溶け込んだ集落をつくって行ければ最高です。

その他、総合的に考えて、地域の魅力を輝かせる2つの要素が考えられます。

- ・1つ目は地域の伝統文化・景観を守り伝える事。
- ・2つ目は誰にでもやさしく感じられる地域になって行ける事。

1つ目は文字通り。2つ目は子ども達が安心して遊び学べる。若者が結婚して地域に溶け込み働き集える所である事。中高齢者が一般生活や福祉の面、医療的な面でも住みやすい場所である事。少しずつ『**5つの種**』を蒔きながら中部地区一体となり育てていける様に努力して行きましょう。